

第一部 山海教授、森川 CEO 対談「若き起業家に向けて」

(司会)内田史彦(国際産学連携本部審議役)

(司会)大学発ベンチャーの国際化に向けて、どのような取り組みが必要でしょうか。

山海氏:筑波大学が海外へ進出して外部資金を獲得することも勿論重要だが、海外の企業や投資家や研究者をつくばへ呼び込むこともとても重要です。私は、海外機関がヨーロッパからアメリカへ出張する際に、わざわざ“つくば”に立ち寄って講演をしてもらったり、ミーティングに参加してもらいました。このように“つくば”をPRすることも重要です。

森川氏:海外から“つくば”への呼び込みは私も重要だと考えている。ただ、それほど難しいことではないと思います。つくばに、そのための環境をアピールすればよいことで、スタートアップに熱心な地というだけでなく、例えば、温泉施設やおいしい居酒屋があるだけでも彼らにとって、つくばは魅力的な場所となり、つくばへの招致に効果的です。

(司会)筑波大学やつくばが、さらに発展するために欠けていることはなんですか。

山海氏:米国の研修に参加する学生が、大学の1週間の研修予定を2週間にしたいということで予算を確保して大学に申し入れたら、大学の決まりがあるとのことで断られたと私のところに相談にきました。ベンチャーを育成するためには、このような学生の提案に柔軟に対応していくべきだと思います。

(司会)最初にだめだと言ったのは私かもしれません(笑)。ただ、そのあと山海社長のサインのある覚書を見せて“山海社長に出資してもらいました”と、説得にきましたので、行ってもらいました(笑)

森川氏:細かなことかもしれませんが、Google Mapで筑波大学は住所が一つなので、国内外のゲストを案内するのに、目的地を教えることができなくて困りました。Google マップで筑波大の各建物にもアクセスできるように働きかけてもらうと有難いですね。

また、つくばは、もっと情報発信をしてはどうでしょうか。茨城県は、民間テレビ放送の広域放送圏及び各都道府県のうち唯一、県域の民間放送局がない。学長のYouTubeチャンネルを作るとか、ITメディアに対して英語で記事を書くベンチャーに特化した記者クラブを作るなど、様々な手をつくして欲しいと思います。

(司会)実は5年前の座談会でも、森川CEOから“つくば”はもっとPRしたほうが良いと同じ指摘を頂いています。ここには、大学の経営陣もたくさん来ているので、お二人の提案を相談していきたいと思います。

(司会)ここで、会場から、お二人に質問があればお願いしたい。

Q1:私は、文系の学生だが、これからの産業・社会はAIやIoTなどの先端技術分野が花盛りです。私たち文系は、このような時代に取り組みばいいのでしょうか。

山海教授:起業家にとって文系あるいは理系は関係ないので安心して欲しい。何を起業するのが、もっと大事です

Q2:私は、昨年、教師をやめてベンチャーの社長となりました。ベンチャーの社長に必要な

資質とは、なんでしょう。

山海先生：ベンチャーの社長に必要なのは、人の気持ちをわかることです。人の気持ちを大切に、どのような技術が必要かを考えることが大切です。よく課題発見能力を磨くことが重要だと言いますが、課題を探しているようでは、その時点で起業家に向いているとは、言えなません。課題は、探さなくても目の前にあります。その課題に対して解決手段を提供していくことが起業家なのです。

森川氏：私も同感です。良く課題は何かを聞かれるが、みんなと同じ課題を解決していたのでは、成功しません。起業家にとっては大切なことは「やりぬく心」です。やり抜くことで周囲を巻き込むことができます。また、何度もチャレンジできる体制、社会実装をやりきる環境、メンタル面のサポートも重要だと思っています。